

令和5年 第8回

教育委員会定例会会議録

令和5年8月7日（月）

港区教育委員会

日 時 令和5年8月7日（月） 午前10時00分 開会

場 所 港区役所7階 教育委員会室

「出席者」	教 育 長	浦 田 幹 男
	教育長職務代理者	田 谷 克 裕
	委 員	山 内 慶 太
	委 員	寺 原 真希子
	委 員	中 村 博

「説明のため出席した事務局職員」	教育推進部長	長谷川 浩 義
	学校教育部長	吉 野 達 雄
	教育長室長	佐 藤 博 史
	生涯学習スポーツ振興課長	竹 村 多賀子
	図書文化財課長	齊 藤 和 彦
	学 務 課 長	鈴 木 建
	学校施設担当課長	井 谷 啓 人
	教育人事企画課長	村 松 弘 一
	教育指導担当課長	篠 崎 玲 子

「書 記」	教育総務係長	本 城 典 子
	教 育 総 務 係	久保田 ゆ り

「議題等」

日程第1 審議事項

- 1 令和6年度使用小学校教科書の採択について
- 2 令和6年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について
- 3 令和6年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

「開会」

○教育長 それでは時間になりましたので、ただいまから令和5年第8回港区教育委員会定例会を開会いたします。

今回の定例会には傍聴の方が多数いらっしゃいますが、会議に先立ちまして皆様をお願いを申し上げます。

事前に配布をしました資料の注意事項をお読みになり、会議においては発言などなさいませんよう、ご協力の程よろしくをお願いを申し上げます。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○教育長 日程に入ります。本日の署名委員は、寺原委員をお願いいたします。

○寺原委員 承知しました。

○教育長 よろしくをお願いいたします。

日程第1 審議事項

1 令和6年度使用小学校教科書の採択について

○教育長 日程第1、審議事項に入ります。議案第54号「令和6年度使用小学校教科書の採択について」審議を行います。

令和6年度使用小学校教科書の採択に当たり、各教育委員においては、東京都の調査研究資料、区の教科書選定研究委員会から提出をされた教科書選定研究資料、各小学校から提出をされた小学校の教科書研究資料、教科用図書展示会のご意見を参考にさせていただいていると思います。本日の各教科書の採択については、これらの意見を踏まえて採択を行ってまいります。よろしくをお願いいたします。

それでは、最初に国語の教科書についてご意見を伺います。現行の学習指導要領は、国語科を通して、正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを求めています。各学校では、語彙指導や読書指導、自分の考えを形成する学習過程の重視などの点で学習内容の改善・充実が求められています。

国語科の教科書について、ご意見ををお願いいたします。

○田谷委員 今日は、よろしくをお願いいたします。

○教育長 お願いします。

○田谷委員 どの教科書も、国語の目標とする「正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成」に向けて工夫をしていると思います。防災や自然災害の扱いが多く取り上げられているのは教育出版、現代の課題に合わせた内容を多く取り扱っているのは光村図書でした。また、言語文化に関することや情報の扱い方の教材の数が充実しているのは東京書籍でした。

○教育長 田谷委員からは、各社がどの項目に力を入れているかという視点からご意見を頂きます。

た。

そのほかにいかがでしょうか。

○寺原委員 いずれの教科書も性差別などの人権問題を題材として取り上げていますので、子どもたちの考えを深めるのに役立つと考えます。中でも、光村図書の6年生の256ページだと「人間は他の生物と何がちがうのか」という題材で、性的指向にも触れながら、基本的人権の尊重の大切さを述べる文章を取り上げていますので、自分の考えを形成する一助になるかと思います。

○教育長 山内委員、いかがでしょうか。

○山内委員 私は、どう考えるか、今の新しい学習指導要領で重視されている課題解決、発見、問題解決につながるような思考力、あるいは、論理的な文章を読む力をつけるというところにどう工夫をしているかというところを中心に見ました。

例えば光村の教科書で言えば、6年生ですと278ページですかね、課題解決に向けて考えるようなことで、分かりやすく理論における思考のプロセスを説明していますけれども、それだけではなくて、実際に140ページの単元のところでも、同じような、それと重なるような展開をつくっている。そういうところは工夫されているのではないかと思いました。

ただ一方で、私は、光村の前回の教科書ですと、新しい学習指導要領になって、例えば4年の上と下の巻頭の最初の単元で「考える、分ける、比べる」というようなことがきちんと一つの単元の中であって、そういうのは象徴的にもよくできていて評価していましたけれども、今回はそういうのがなくなっているということについては、少し残念だなと思いました。

これは、光村図書の2年生、3年、4年、5年、6年、ずっと各学年の巻末に、図を使って考えようということで、比べる、分ける、あるいは広げる、あるいはつなげると、それぞれの重要なところを押さえてまとめていて、しかもその具体的な例も学年が進行するごとにそれぞれ進化していくという工夫があるという点では、その点は評価できるかなと思った次第です。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 私は、学習の進め方という視点で見させてもらいました。そういう観点から見ると東京書籍もよくできているなと思いました。「国語のノートの作り方」というコーナーを各冒頭に持ってきてあって、ノートの書き方のポイントを示しているのですが、これは発達段階に応じて学年ごとにつくっているところは工夫しているのかなと思いました。

また、選定資料にもあるのですが、言葉相談室というような、言語事項が学習できるような工夫もされております。語の指導についてはどの教科書でも取り上げられているところではありますけれども、言葉の学習であることが一目で分かるところはよいところかなと思いました。

ほかにも光村図書や教育出版、こういうところも目次に言語事項の内容であることが分かりやすいように示してありまして、語の指導の改善、それから充実を目指しているところがよく分かりました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかの視点でのご意見はございますでしょうか。

○山内委員 先程言い忘れたことを一つ加えると、言葉の力、論理的な力を育てるという点は、もちろんほかの教科書も色々な工夫があって、例えば東京書籍の「情報のとびら」というようなコーナーをつくっているのは、そういうのをもっと拡大していかれたらいいなというところはありません。

それから、やはり国語の学習は、言葉の語彙をどう豊かにしていくか。語彙とあわせて、微妙な意味の違いとか、あるいはどういう語彙を使って表現していくかというところで、語彙力を育て、また感性を育てるというところも重要だと思います。

その点では、例えば巻末の工夫を見ると、光村図書の場合は、2年生以上の巻末は「言葉の宝箱」というページがあります。「言葉の宝箱」は、それぞれの年代に応じて人物を表す言葉とか心情を表す言葉、事実を表す言葉、これが徐々に増えていく、あるいは膨らんでいくというところがあります。こういうようなものを一つ参考にしながら、さらに表現力を付けていく、あるいは語彙に関するセンスを養うという点でもよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 読書指導の充実という点に関しては、どの教科書もそれなりの力を入れておりまして、特に差異はないのかなと思いました。紹介する図書の数が多いという点では、東京書籍や光村図書が充実している感じでした。各学年の教材文の終わりに関連の図書が多数紹介されておりまして、読書にも興味が持てるような工夫がされていると感じました。

○寺原委員 国語は、文字を読むことが主な学習活動になりますので、行間や改行の仕方などは各社工夫されていると思います。どの教科書も学年、教材の内容に応じたフォントを使用していますけれども、教育出版と光村図書はユニバーサルデザインのフォントを使用しています。特に光村図書では、低学年の物語教材の文字を大きく太くするという工夫をしているところが印象的に感じました。教育出版も「読むこと」という単元では大きなフォントを使用しておりまして、児童にとっては読みやすくなっていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 色々ご意見頂いておりますけれども、光村図書においては、総合的な作品数が200作品を超えており、文学的な作品、また詩と俳句の数からも充実していると考えております。6年生の内容では、『鳥獣戯画』を含む表現を扱い、日本の伝統や芸術の素晴らしさを学べるほか、宮沢賢治の原作である『やまなし』では、賢治の独特な世界観から児童が物語の世界を様々なイメージできる教材だと思います。こうした多くの作品に触れることは、本区の児童にとっては大変意義深いことと考えます。また、季節の言葉を取り上げ、年間を通して二十四節気を学習できるように計画されています。取り扱う内容や数からも光村図書が港区に適していると考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員の皆様からは、語彙の指導の視点や、他教科書との連携、題材の内容や読みやすさ、読書

指導の充実、港区における指導の実態などの観点からご意見を頂きました。これまでの皆様からのご意見から光村図書を推薦する委員が多いように思いますが、国語については光村図書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、国語の教科書につきましては光村図書に決定をいたします。

引き続き、書写の教科書について皆様からご意見を伺います。

○田谷委員 どの教科書においても、姿勢、筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方等の内容を系統的に示していると思います。光村図書と東京書籍は、アルファベットの書き順を示しているのがとても印象的でした。光村図書は、5年生の巻末35ページに、英語で名刺をつくる活動を取り上げています。ほか東京書籍では、5年生の38ページに世界の文学について取り上げていると思います。国際色豊かな港区に合った教科書だと考えています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 教育出版では、選定資料にもありますが、2年生から「レッツ・トライ」というページが掲載されておりまして、各教科で生かせる内容が具体的に取り上げられているようです。例えば5年生の19ページ辺りを見ますと、工場見学のメモの取り方を学習できるようになっておりまして、社会科の学習と関連付けて学習を進めることができるように工夫されておりまして。

○山内委員 書写の授業は、やはり古典と親しむということにおいても貴重な時間だというふうに思います。その点で言えば東京書籍は、例えば5年生の26ページには、「書いて味わおう」という題名で竹取物語や奥の細道の一節を取り上げる。あるいは、6年生でも漢詩の『春暁』の……ですね。各学年それぞれに2年生の俳句から始まって、古典に親しむという機会を作っているというのは評価してよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 毛筆の学習は3年生からになりますけれども、東京書籍は2年生で水書のページが用意されていて、毛筆につながる学習を取り扱っています。選定資料からは光村図書と教育出版も同様に2年生で毛筆につながる学習を取り扱っているということが分かります。系統的に学習を進めるという視点から次の学年につながる内容が示されていることがよいと思います。

○田谷委員 それぞれ各社よいのですが、教育出版には小筆を使って俳句を書くという学習が取り上げられています。国語の教科書と同じように俳句指導に活用できるのではないかと考えています。

○中村委員 選定委員の資料からは、東京書籍が書写の学びを生活に生かせるように工夫がされておりまして。具体的にいうと、「生活に広げよう」とか、文字と一緒に、それから「学びを生かそう」というような構成で、文字を楽しんで書くこと、そういうところを見童に促そうということがうかがえてよいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

様々な視点から各教科書の特徴を挙げていただいておりますが、ほかの視点からこれを推薦する

というご意見はございますでしょうか。

○山内委員 あとは、実際に筆で書くときの手本書としての使いやすさということも考えるといいいのではないかと思います。各社それぞれの工夫はあると思いますけれども、生徒も限られた机の上で教科書を見て書くということを考えると、東京書籍と光村図書が比較的使いやすそうなのではないかとは感じたところです。

○寺原委員 光村図書は、6年生の44ページで「私の文字」というのが取り上げられていまして、著名人の文字が書かれています。文字には書く人によって異なる味わいがあることや、文字から感じることなどを考えるきっかけを学べると感じました。また、性別に関係なくという文字を例として示すなど、全学年でSDGsを意識した内容になっているのが特徴的だと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今程もお話がありました光村図書ですが、姿勢や用具の持ち方のページが、ページ数も多く充実していると思います。特に教科書の中に書き込んで練習できるスペースがあり、見開きでお手本を見ながら習字の練習ができるという点ではよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

これまでのご意見では、国語の授業の限られている時間数の中で取り扱っている内容や児童にとっての使いやすさなどの視点からご意見がありました。その中で、光村図書を推薦する方が多いようですが、書写の教科書につきましては光村図書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、書写の教科書につきましては光村図書に決定をいたします。

次に社会科の教科書についてご意見を伺います。現行の学習指導要領で目指す「公民としての資質・能力」を育成するため、今後各学校では問題解決的な学習を一層充実させる必要があります。社会科の教科書について、ご意見をお願いいたします。

○田谷委員 社会科の教科書においては、学校の授業だけではなく、家庭で子どもたちが学習を振り返ろうとするなど、どの教科書も基礎的、基本的な知識の習得や問題解決型の学習を充実させているだけではなく、写真や統計などの資料が適切に掲載されている印象を受けました。中でも教育出版は、白黒写真をカラーで再現するなど、資料掲載の工夫が見られます。本文の文章と写真や図のバランスを取るという観点から見ると東京書籍はとても読みやすい印象があります。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今の点ですけれども、確かに教育出版は、明治、大正、昭和の白黒しかなかった時代の資料をかなりカラーにしている。これはある意味で、子どもたちが実感を持って想像しやすい点ではいいのですけれども、逆に全て白黒をカラー化してしまうということ自体は、オリジナルの資料からきちんと読み取る力を損ねるという点では、少しやり過ぎではないかと私自身は思いました。せめて、カラーにするのであれば、どの写真をカラーにしたかを巻末にまとめて書くのではなくて、やはりそれぞれの写真の下に、これはそういう手を加えたということを書いておくべきだということ

とがちょっと思ったところです。

さて、問題解決的な学習という面では、学習の過程を教える先生と生徒がどう共有するかという点では、東京書籍が比較的工夫をされている。「つかむ」「調べる」「まとめる」というような流れで一単位時間ごと流れを分かりやすく示しているというふうに思いました。そしてまた、広げて「いかす」というふうにページが展開をしています。

いくつか具体的に比較をしてみましたけれども、例えば東京書籍の6年生の「歴史編」の194ページ、それから教育出版の6年生の162ページ、それから日本文教出版の154ページ。たまたま蘭学を巡る説明があったので、私はそこを一つの例として比べてみましたけれども、ある意味で日本の近代化にとって非常に重要な江戸時代の蘭学の意義をどう考えさせるのかというときに、例えば教育出版だと、この時間の問いが「江戸時代に学問はどのように発展したのだろう」。そして、次につなげようは、「どのように広まっていったのかな」という指摘だけ、提示だけで終わってしまっすけれども、例えば東京書籍だと、まず調べるは「蘭学はどのような学問で、人びとの考え方にどのような影響を与えたのでしょうか」というところから始まり、学びのポイントとしては、「蘭学の発展が人びとの考え方にどのような影響を与えたのか話し合おう」というように、やはり一段階先に行くようなページがある。これは一つの例ですが、そういうところが各所に見られるという意味では、よく工夫されているというふうに思いました。一方で、そういうテーマは一つだけではないので、そこに提示されている以外の問いを一人ひとりがどう見つけられるかということは、教員が工夫しなければいけない点だとは思いますが、以上です。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 私は、具体的な内容に着目を置いて見ました。成人年齢が18歳に引き下げられたことから法教育の充実が重要な観点になると考えています。6年生の教科書を見ますと、各社とも憲法三原則について充実した説明から始まっているというのが素晴らしいと感じました。中でも日本文教出版は、基本的人権にページ数を割いて丁寧に内容を深めているというのが特徴的であると感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 私は、現行の指導要領で重視されている見方、考え方の扱いに注目して見てみました。教育出版は、巻頭に学習の仕方とか社会科の見方、考え方が平易に示されておりまして、学習する児童の立場からすると使いやすいのではないかなと考えました。いつも振り返りながら学習を進めることというのは非常に重要なことですので、確かな考え方が身についてくると思っております。また、教育出版は各ページの文字量が多く情報量が多いというところで、より深く追究活動を行いたいと考える教師、あるいは児童には使いごたえはあるかなと感じました。

○田谷委員 使いやすさという点では、私は指導要領で示されている地理的環境、歴史、現代社会の仕組みや働きといった内容の区分けに注目しました。東京書籍の5・6年生、これが分冊になっているというのはとても扱いやすいのではないのでしょうか。厚さや重さ、これは教師にとっても児童にとっても日々使用する上でとても大切なことだと思っております。

○寺原委員 私も東京書籍の分冊はよいと思います。6年生で歴史と現代社会の仕組みや働きということが分かれていることは、学習を振り返る上でも非常に扱いやすいというふうに感じました。

記載内容で言いますと、日本文教出版が、「学び方・調べ方コーナー」というところの中で、提案の仕方だったり深め合いの進め方というものを児童のノートの例やイラストを使って紹介をされていて、児童にとってはとても分かりやすく扱いやすいと思います。さらに、世界的な課題であるSDGsを単元末で扱うという工夫も評価できると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

これまでの皆さんのご意見では、東京書籍の教科書が児童の主体的な活動や問題解決的な学習を取り入れているとともに、扱いやすさに関しても充実をしているという意見が多かったように思いますけれども、そのほかの視点からご意見等はございますでしょうか。

○山内委員 先程申したように、東京書籍は評価できるところは大きいと思うのですが、一方で全体を見ると比較するのはなかなか難しいというところもあります。

例えば5年生の教科書で色々な地域の産業を取り上げていますが、婦恋村の農業を日本文教出版と東京書籍が同じように取り上げていますが、グラフとかの取り上げ方の工夫という点では、日本文教もなかなか工夫されて色々な資料がバランスよく入れられていると思います。一方で東京書籍の方も各地域の気候に応じた農業などを説明した上で、最後に日本全国の特徴を日本の地図の中に落とし込んでまとめるというような工夫がされている。つまり、それぞれの地域を見た上で、最後に相対化して見られるような流れが工夫されているというところなどは逆に評価できる。そういう点ではそれぞれ良さがある。

あるいは、5年生の工業ですね。特に自動車産業などは、出版社によっては、例えば東京書籍はやや淡泊かなというところもあったりして、一長一短ということはあると思います。そういう意味では先生方がそういうのを読み比べながらうまくいいところを、うまくそれぞれの出版社のを持ち込んで教えられるかということが、どの出版社としても大事になると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかががでしょうか。

○中村委員 今、山内委員からもお話がありましたけれども、東京書籍はその時間に児童が主体的に問いを持って追究し、そして新たな発想を持って新たな問いを持つという上では紙面がある程度構成されているなど感じました。

○教育長 ありがとうございます。

皆様それぞれの各教科書の特徴があるというところの中で、意見をまとめていく中では、東京書籍を採択するというところになろうかと思いますが、社会の教科書については東京書籍ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、社会の教科書につきましては東京書籍に決定をいたしました。

次に、地図の教科書についてご意見を伺いたいと思います。

その前に私の方から事務局に確認したいことがございます。社会科において地図帳はどのように活用されているかご説明をお願いいたします。

○教育指導担当課長 主に地形や土地の利用を調べる際に活用をしております。4年生の東京都の様子について学習したり、5年生の日本の産業について学習したりする際に、地図だけではなくて、巻末の統計資料も活用するような授業展開を行っています。空間認識能力を子どもたちが高める上で非常に重要な教材であるというふうに認識をしています。現行の学習指導要領では、3年生から地図帳の使用が示されました。これまで以上に授業での活用が求められているという現状がございます。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ただいまの担当課長の話も踏まえまして、改めて教育委員の皆様からご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

○山内委員 今、お話があったとおりで、地図帳は社会科の授業の中で、資料集としての位置付けも大きいと思います。そういう意味では、どういう地図がどのくらい豊富にあるかということも考えなければいけないと思います。

そういう意味では、例えば土地のいわゆる利用図というのでしょうか、その図は、東京書籍は地方に限定しながら16個ですかね、掲載していますけれども、帝国書院は55掲載している。全ての地域を網羅しているという具合です。土地をどう利用しているかという図は地域の特性を考える上では非常に重要なものだと思います。

例えば、例を挙げると愛知県の周辺の工業地帯は、東京書籍だと40ページでしたけれども、地図記号で工場を表記しています。例えば表記も、組み立て工場、自動車、オートバイの部品をつくる主な工場というくらい丁寧に区分けで表記がされています。一方で、帝国書院の61ページになりますけれども、丁寧に見ていくと、部品の工場も、エンジンからステアリング、シート、タイヤ、ガラスとかなり細かく分けて表記されている訳です。そういうのを見ることで、どういうふうにそれぞれの地域、あるいはその工場で分担しながら一つの自動車がつくられているかということも分かりますし、また、そこからの物の流れ、物流についても、地図の中に船での海外あるいは全国への流れ、あるいは高速を使った流れということも表現されているという意味では、帝国書院が丁寧に表記をしているのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 地図帳の利用、活用という観点で見ましたが、3年生にとって初めての地図との出会いというところで、冒頭のページの扱いに注目してみました。東京書籍の方は、鳥瞰図から始まり、広い範囲へと視点を変えているということで、様々な気づきが期待されます。一方帝国書院の方は、写真やイラストを使用して、地図の見方、使い方、基本的な知識について紹介をしています。どちらの地図帳も児童の興味・関心を高め、正しい使い方が身につくと考えました。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今の点に関してですけれども、やはり地図を読み取る力をどうつくっていくかという点では、分かりやすく例えば鳥瞰図を豊富に入れるとか、鳥瞰図とそうでない地図、一般的な地図を対比できるようにするとか、あるいは地図の中での色の使い方、そういうことも重要になってきます。そういうことも考えてそれぞれの業者が工夫していますが、例えば鳥瞰図等が帝国書院は比較的豊富に掲載されていて、それと対比する中で地図を読み取る力がつくというようになるのではないかと思います。

また、例えば高原地帯の暮らしを紹介する鳥瞰図、例えば帝国書院は八ヶ岳の周辺を丁寧に事例として挙げていますけれども、そこには単にその鳥瞰図だけではなくて、例えば土地の高低差と気温、あるいは特産物等も加えていて授業の中でも活用しやすくなっているのではないかと思います。

○寺原委員 私は、地図帳を使った指導に着目いたしました。帝国書院は、冒頭のページが大変充実しています。地図の位置付けだったり、地図の使い方の説明が丁寧で分かりやすいので、子どもたちが地図を学ぶ際の導入として優れていると思います。

○田谷委員 地図帳の場合は、子どもがいかになじみやすいかということが重要なアイテムとしてあると思います。このことについては、港区がいかに載っているかということになるのですが、特に3・4年生では、港区や東京について産業とか工業の学習をします。私の地域でも港区の工業、町工場が多い地域ですので、そういった学習の時間もあるということを実感しております。

そういう意味で、東京近郊のページについて比較してみました。東京書籍は、首都東京と題して、45ページから47ページまで東京の特集ページを掲載しています。大きくてとても見やすいことに加え、特に注目すべきは港区周辺の分かりやすさです。地図の中心に港区があり、これは大体東京を写すと港区中心になってしまうのですが、主な建物や交通などがとても分かりやすく表現されています。

一方、帝国書院は、67、68ページで東京都の特集ページがあります。色合いがはっきりしており、土地利用図が分かりやすいです。帝国書院で注目すべきは、71ページから73ページの「東京都とそのまわり」です。大きな地図で東京都全体の様子を分かりやすく、つかみやすく、東側と西側の地形や土地の使い方の違いが一目で分かるように表されています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、田谷委員からご指摘のあった帝国書院の「東京都とそのまわり」というところを拝見しましたが、4年生の東京都の学習がより充実しそうな感じがして、いいなと感じました。例えば港区の対比としてそれを使って、地図を使いながら問題解決への学習展開ができるのではないかなと感じました。

もう一つ帝国書院で感心したのは、東京都の特集ページとして69ページと70ページのところに、江戸時代後期の地図を記載しているところですが、このように、同じ場所ですけれども時代の異なる時期にどのような位置にあったのか、そういうところは6年生の歴史学習で使用することで理

解が一層深まると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今の中村委員のご指摘の点はとても重要で、私も同じです。地図は、今の地図をただ見るだけではなくて、昔の地図と対比する面白さを知ることが、さらに地図を読み込む、あるいは歴史教育や地理の教育とつなぐためにも重要で、その種まきになる訳です。

例えば帝国書院の55、56ページに江戸時代の結びつきというテーマで書いていて、いわゆる街道を示すということをしていたり、あるいは、69、70ページで江戸後期の地図が示されています。ただ、そのときに、やはり今の子どもたちがタイムスリップして見られるように、あえて今の線路も入れてある訳ですね。そうすると、例えば山手線のちょうどこの三田の辺り、田町から品川にかけて海の上に線路があるというように、実はそうやって古い地図と今の地図と見比べるとここでも発見できるような工夫もあるという訳です。こういうところは評価していいのではないかと思います。

また、巻末もそういう観点からの工夫もあります。例えば帝国書院の方は、巻末に日本の昔の境界と出来事として、いわゆる昔の藩の名前が入っているというようなことで、比較的歴史的な観点からの勉強の入口になるということが言えるのではないかと思います。

一方で、東京書籍も実は工夫があって、巻末の「世界との関わり」というところでは、8世紀、13世紀、16世紀と、それからその後19世紀、20世紀、どう日本と世界がつながっていたかというところの地図があります。これはなかなかよい工夫で、逆に帝国書院にはないところですので、そういうところも色々生かしてほしいものだと思います。私からはそんなところでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 両社ともにユニバーサルデザインの観点から全ての児童が学びやすいように作成をされていると思います。帝国書院の方ですと、世界地図のページに掲載されているQRコードを読み込むことで英語表記の地図を見ることができます。これは港区にとってはとても重要な機能というふうに考えます。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 両社ともそれぞれ特徴があって、それなりの優れた地図帳だと思います。しかしながら、土地の利用図などがより充実していて、様々な学年での効果的な活用ということを考えますと、帝国書院の方が児童にとっても、そして教員にとっても、より使いやすいのではないかなと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

それぞれ両社とも様々な工夫があり、活用しやすい改訂がなされているようですけれども、これまでの皆さんのご意見を伺うと帝国書院ということに意見が集約されてきているようです。

地図の教科書については帝国書院を採択するということがよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、地図の教科書については帝国書院に決定をいたしました。

次に算数の教科書についてです。現行の学習指導要領からプログラミングが導入され、特に5年生において、正多角形と円の学習でICT機器を活用した授業を行うことが示されております。また、データの活用領域が新設され、統計についての学習の充実が求められています。

それでは、ご意見を伺います。いかがでしょうか。

○田谷委員 今、教育長からのお話にありましたプログラミングという視点から見ますと、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の5社においては、5年生だけではなく、全学年においてプログラミング的思考を育む学習活動が示されています。取り扱う学年やページ数が前回よりも拡大しているという印象を受けます。

○教育長 ありがとうございます。

現行の学習指導要領から位置付けられているプログラミングについてのご意見でしたけれども、この点について、そのほかご意見等はございますでしょうか。

○山内委員 プログラミングに関しては、例えば東京書籍、大日本図書、啓林館、それから日本文教出版がスクラッチを取り扱っています。比較的使いやすい、なじみのあるアプリケーションを使っているという訳です。一方で、学校図書と教育出版は自社で制作したアプリケーションを使用できるようです。いずれもQRコードからアプリケーションにアクセスできるようになっているということで、応用がしやすい工夫がされていると思いました。

一方で、プログラミングって何のためにするのかという意味では、もうスクラッチやアプリを使えば済むというのではなくて、やはりそこで必要な思考力を養う、そこにどうプログラミングを生かすかということが重要で、その点では、私は率直に言えば各社まだまだ工夫の余地はあるなと思いました。

○寺原委員 今、お話のありましたプログラミングに必要な思考方法という点で見ますと、東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版の4社が特に丁寧に解説をしている印象を受けました。

○教育長 ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 私も今、寺原委員が申されたような感じで、同じ意見を持っています。特に東京書籍は、見開きのページが見やすく、順序立てていて、非常に分かりやすい説明になっていると感じました。6年生の232ページから233ページ辺りのように、まずはコンピューターの基本的な思考をしっかり学んでからアプリケーションを活用するという流れになっており、プログラミング的思考を高める上で非常にいい構成になっていると感じております。

○教育長 ありがとうございます。

学習指導要領の改訂を踏まえた視点ということで、統計についてはいかがでしょうか。

○山内委員 新しい学習指導要領になって、統計、つまりデータの活用がかなり充実をしてきました。私もその観点から今回丁寧に見たつもりです。単にテクニックとしてというのでしょうか、知識として理解するだけではなくて、いわゆる統計的な思考力をどう育てるかというところまで考える必要があると思っています。

その点で言うと、各社6年生の教科書を見比べてもPPDACサイクル、「Problem」「Plan」「Data」「Analysis」「Conclusion」のPPDACサイクルを丁寧に取り上げる傾向は、それ自体は好ましいことだと思いました。ただ、重要なことは、単にそれを説明するだけではなくて、実感を持って分かりやすいような題材をどうそこに組み入れるかということだと思います。

その点で言えば、例えば日本文教出版は、比較的PPDACサイクルが丁寧に説明されているということ強く感じました。例えば、6年生では学年全体のマスコットをつくるということについて、アンケートを取って、そのアンケートを基にどういうデザインにするかを考える訳です。つまり正解がない課題に対して、データを取って、より最適なものをつくっていくということです。

ほかの出版社はどちらかと言えば、例えばリレーの代表選手をどう決めようとか、あるいは…選手をどう選ぶとか、そういうところですけども、さらに一步踏み込んで、新しい課題に向けてデータを取っていくというところがなされているというのは面白いと思いました。

もう少し補足すると、例えばその他、文教出版は88ページ、題材としても、例えばドットプロットと分布を見せ、代表値を考えさせるところでも、例として弁当の値段と売れる個数の関係を見て二つの山ができていくというようなところを説明して、そしてなぜ二つの山ができるか考えようというような題材があります。そういう題材の選び方も私は評価できると思いました。そして、その説明が実は重要で、例えば何のためにデータを取っているかというところで、例えば88ページ、まとめるデータの特性を表す値などを求めるときに判断の理由を明らかにして説明することができるといふふうであり、また、89ページでも、自分の考えを図や言葉を使って表そう。つまり判断の材料としてデータを活用していくということのメッセージが比較的多く表現されている。これはほかの出版社よりは、判断のために活用するんだという視点はうまく伝わるように考えられているのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 PPDACサイクルということだと、東京書籍の5・6年生でも大きく扱われています。例えば5年生の下巻の88ページでは、学習の振り返りとしてサイクルの紹介をして、その後90ページで実際にこの考え方を活用した題材を掲載しています。サイクルの段階別に色分けもされているので、見やすくてよいと感じました。

○田谷委員 今、寺原委員のご発言の内容は、私も確かにそう思います。6年生の190ページから195ページのように、このサイクルの考え方を使った具体的な題材があります。今、サイクルのどの段階に取り組んでいるのかが分かりやすいです。巻末216ページの算数の仕上げでも再び取り上げることから、東京書籍はこのサイクルの考え方を大切にしていることがうかがえます。

○教育長 ありがとうございます。

プログラミング、統計以外の視点でのご意見等はございますでしょうか。

○中村委員 私は、やはり算数ですので、問題の数ですね、練習問題の数の多さというのも一つのポイントではないかなと思っていて、そこに着目して見ました。都教委の教科書調査研究資料によ

りますと、各出版社の練習問題の数ですが、大日本図書と学校図書の2社が3、700問を超えており、ほかの4社が2、800から2、900問程度ということのようです。問題数としては、どの出版社も数としては十分なのかなと思いました。

○田谷委員 私は常々思っているのですが、小学校の算数の学習では単位の換算につまずく児童が多いと思っております。進学や就職してからも、単位換算で学習した内容はとても重要だと思っております。その視点で言うと、どの教科書会社も身近な題材や単位を用いているので非常に分かりやすいと思えます。

○寺原委員 どの会社も1年生のスタートカリキュラムを意識して作られているというふうに感じます。中でも東京書籍、大日本図書、啓林館は入学したばかりの1年生向けに教科書をA4サイズにしていますので、イラストや直接記入する欄が大きくて子ども目線の構成になっていると感じました。また、東京書籍の教科書は、目次や単元の冒頭に振り返りがしやすいように前の学年で習ったことが書かれてあるというのがよいと感じました。

○山内委員 今回、どの出版社も二次元コードがかなり付いていて、その解説動画も見比べるとそれぞれに工夫もありますし、分かりやすくなっていると思えました。東京書籍の場合は、二次元コードで、自分で採点して正誤を確認できるような機能もあります。そういうところも活用されるのではないかと思います。一方で、紙で書いた方がもっと効率よく勉強できるのではないかとか、そのバランスはもっと今後工夫が必要だろうというふうには思いました。

○中村委員 学校研究にもありましたが、垂直線と面積図などを組み合わせた図があったり、計算の決まりなどのポイントなどが色づけされているという辺りは、東京書籍の教科書は視覚的に理解しやすい構成になっていると感じました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

様々なご意見が出ましたけれども、プログラミングや統計、そして今話題になりました二次元コードなど、多数の視点から東京書籍の教科書が分かりやすいという意見が多かったように思いますけれども、算数の教科書につきましては東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、算数の教科書につきましては東京書籍に決定をいたしました。

ここで教科書の入替えを行いますので、しばらくそのままお待ちいただければと思います。

では、入替えが終わりましたので、引き続き理科の教科書についてコメントを伺います。現行の学習指導要領では、観察や実験を通して児童が考察した結果から結論を導き出していく問題解決の活動を充実させているほか、理科を学ぶことに意味を持ち、理科への関心を高めて日常生活や社会とのつながりを持たせることを重視しております。

それでは、ご意見を伺います。

○田谷委員 港区においては、理科の学力向上が非常に課題となっております。今、教育長の話にもありましたけれども、観察や実験とおっしゃいましたが、観察という意味で、港区内ではご存じ

のように自然観察が非常に難しい状況にありますので、それをどういうふうに現場の先生たちあるいは教科書で補っていただくかということになると思います。そういう意味で、港区の子どもが理科という科目に関心を持って楽しく学習に取り組めるように、港区に合った教科書を採択していきたいと思っております。特に港区は、先程申し上げましたように、植物や昆虫について学ぶ上で環境的に制約があります。そういう意味で、東京書籍は植物や昆虫の写真をはじめ、全体的に資料写真が大きく見やすく掲載されていると思っています。

○中村委員 問題解決の視点から考えると、各社とも非常に工夫はされております。その中でも大日本図書は、問題を見つける段階から結論を出す段階までの見通し、これが持ちやすいだけではなくて、単元の最後に学んだことを生かそうという内容があります。単元で学習したことを生かして、新たな問題を考え解決するということは応用する力となり、深い学びにつながるものと考えます。また、発展的な内容を多く取り上げているのもいいところだと考えました。

○山内委員 まず、先程算数でも統計的な思考のところを話しましたが、理科もやはり実際にデータをどう取って、そしてそこから何を見いだすかというプロセスを教育するというのも大切になっています。

そういう観点で面白いと思って見たのは、3年生の教科書です。ゴムとか風の力の働きを見る。つまりゴムを伸ばす長さを変えるとゴム動力の車の動く距離が変わるという現象ですね。そこを勉強する単元が各出版社ありますけれども、単に長く引っ張れば長く動く、長い距離を動くというところで終わりにしているのではなくて、最後は、そうやってデータを取った上で、狙ったところに止めるにはどうするか。つまり引っ張る距離と動く距離の関係のデータを取って、その引っ張る距離を制御すれば狙ったところに車を止められるというような思考を教育するということがあります。前回の教科書の採択のときは、確かそのゲームができていたのは教育出版だけだったかもしれない。私のうろ覚えな記憶ですが、教育出版は特にそこに力を入れていたと思いますけれども、今回はほかの出版社も、最後にゲームをしながらその感覚をつけるというところをしているのはとてもいい展開だと思いました。

例えば今回、大日本図書を見ても、56ページ、57ページ、最初にまずその単元の説明のところ、どうやったらゴールぴったりに止められるかというところを絵で示して、そこから入っていく。そして、最後はそのゲームという流れをとっています。こういう工夫はとてもよいことですし、子どもたちが楽しくゲーム感覚を持ちながら勉強できるという点でも評価できると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

問題解決の過程を視点としたご意見を頂きましたけれども、ほかの視点からのご意見等はございますでしょうか。

○寺原委員 持続可能な社会づくりという視点からしますと、学校図書は全ての学年の各単元がSDGsの目標と関連する位置付けをしています。6年生の最後の単元である「人と環境」という中では、持続可能な社会へという問題を取り上げていたりもします。学習したことが実社会と関わっているということが学べるというのはいいなと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 あとは、どう子どもたちの好奇心を刺激したり、新たな視点を提示するかということも教科書の工夫だと思いますけれども、大日本図書は、「りかのたまてばこ」という内容が比較的豊富で単元に関わる様々な知識が得られるようになってきていると思います。また啓林館は、理科の楽しみ方、まずそれがあります。

それから、もう一つ全体的に見て加えて補足しておきたいのですが、各社、各学年の教科書、多くの出版社が冒頭にその考えのプロセスを説明している訳ですけれども、その中では啓林館が私は表現の仕方としては評価できると思いました。つまり巻頭のところに、各学年ですが、理科の楽しみ方が、問題、予想、計画、観察・実験、結果、考察、まとめ、もっと知りたい、次の問題へ、そのようにサイクルになっているということです。ほかの出版社は一方向で終わっていますけれども、そのサイクルがきちんと視覚的にも分かるように示されているというのはとてもよい点だと思います。

○教育長 ありがとうございます。

観察あるいは実験の際の安全指導面の配慮についてはいかがでしょうか。

○中村委員 その点につきましては各社とも工夫はされていますが、特に啓林館は各実験で注意すべき点について、保護めがねとか換気、あるいは廃液、けが、やけど、それから強い痛み、こういうようなものを個別にアイコンで示しております。また、なぜこのような注意をしなければならないのかということまでしっかりと記載されていて、とても丁寧で分かりやすいかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今もお話がありました各実験器具の取扱い方については教育出版、これは学習者用端末を使って、二次元コードからデジタルコンテンツが見られるようになっています。動画で操作方法を確認できるので、子どもにとってはもちろんのこと、指導する教師にとっても有効で優れている点だと思います。

○教育長 ありがとうございます。

今回の改訂では、各社デジタルコンテンツが充実した印象です。学習者用端末を活用して、子どもたちがどのように学ぶのかという視点も必要ではないでしょうか。まず確認ですけれども、区内のデジタル教科書の導入状況はどのようになっているか事務教に確認をいたします。

○教育指導担当課長 現在、区内の小学校では、国語、算数、社会、外国語については児童用のデジタル教科書を導入しています。しかしながら、理科については導入をしておりません。

○教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明のとおりでございます。それでは、子どもたちは学習者用端末を活用して教科書紙面の二次元コードを通して使用することになります。これについてはいかがでしょうか。

○中村委員 大事なことは、デジタルコンテンツの多さというところではなくて、あくまでそれを活用する児童の理解が確かなものになるかどうかというところが重要と考えます。このような視点で見えていく必要があるのではないかと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 そうですね。まず教科書で十分理解できるということが重要だと思います。例えば教育出版の6年生の人や動物の体の単元では、教科書を見開きで実寸大の体の内部の図を載せています。自分の体を触れて確認したり、子どもたち同士で見合ったりすることができ、これはとてもよいことだと思います。まず教科書自体の分かりやすさ、使いやすさがあつた上でのデジタルコンテンツだと思っています。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今のご指摘はとても大事なところで、私も、やはりまず教科書自体ができるだけ分かりやすく、そしてまたそれだけでも必要な情報が得られるようになっていくという必要があると思います。その点で言えば、今、人や動物の体という単元が一つ例として出てきましたけれども、そこを見ても大日本図書は、例えば呼吸の機能についての肺の作りのところでは、気管から気管支に分かれて、そして最後肺胞まで細かく分かれていく。そこに巻き巻く血管があつて酸素と二酸化炭素を交換する、実感的にも分かるように説明されています。これが出版社によってはそこまで説明がないので、どこでどうして酸素と二酸化炭素が交換されるのか、取り込んだ酸素と血液中の二酸化炭素を交換するのか、全然実感が湧かない出版社もあります。そういう点では、細かいところまで点検する必要がありますけれども、私が見た印象では、大日本図書が比較的丁寧に教科書の図解、それからデジタルコンテンツがとても得られているという印象を持ちました。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 問題解決の過程を充実させるという点からしますと、東京書籍はデジ活の中で、問題をつかむプロセスであつたり、会話のポイントということを確認することができますので、経験年数の少ない先生方や理科の指導に自信がない先生でも授業を進めやすいと感じますし、子どもたちにとつてもどうやって取り組んだらよいか分からない場合には大きな助けになると感じます。

○教育長 ありがとうございます。

様々な視点でご意見を頂きました。各社のそれぞれの良さが分かりましたけれども、そろそろまとめに入りたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○中村委員 理科を考える上では、やはり問題解決の視点というところは欠かせないと思います。そういう点から、大日本図書は問題解決の見通しを持ちやすいことに加えて、「学んだことを生かそう」という単元で、学んだことを生かして新たな問題を考え解決する構成になっています。また発展的な内容が子どもたちの関心を高めるとも考えます。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今、中村委員のお話でしたが、私もそう思います。各社それぞれに強みがありますが、問題解決の活動を充実することや理科を学ぶことの意義、あるいは理科への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを意識する上で、私は大日本図書はバランスがよいのではないかと考えております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

各委員の皆様から問題解決学習の視点、環境教育、安全指導、そしてデジタルコンテンツなどの視点からご意見を頂きました。これまでのご意見をまとめていきますと、大日本図書を推薦する声が多いように思います。理科については大日本図書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、理科の教科書につきましては大日本図書に決定いたします。

次に、生活科の教科書についてご意見を伺います。学習指導要領では、小学校低学年における各教科等における学習との関係性、幼児教育とのつながり、中学年以降の学習とのつながりを踏まえて、体験的な学習を通して育成する資質・能力が具体的に改善することが挙げられております。そのことを踏まえてご意見をお願いいたします。

○寺原委員 6社とも国語、算数、図工と関連できる指導内容が記されておりまして、さらに中学年以降の学習とのつながりを意識して編集されていると感じました。特に教育出版は、下巻で理科への窓だったり、社会科への窓のコーナーがありまして、児童の気づきから3年生以降の理科、社会科へのつながりを意識していると感じます。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今もご指摘がありましたけれども、幼児教育とのつながりを重視する視点から見ると、どの教科書も上巻の巻頭にスタートカリキュラムを意識したページが設けられていると思います。児童が入学して、学校生活への見通しを持たせるだけではなく、ここが重要なのですが、保護者への啓発のページを設けている点です。

○教育長 ありがとうございます。

学習指導要領に示されている系統的な指導に関するご意見もございましたけれども、そのほかの視点からのご意見等はございますでしょうか。

○山内委員 生活科では、できるだけ身近な題材で直接体験をする、その中から新たな気づきという新たな発見を子どもたちがしていく。そこを刺激していくということが大切になるのではないかと思います。そういう中で、特に港区という環境の中で、どういう教科書、どの教科書だと、例えば生き物とか、あるいは学校の探検、町の探検、あるいは生き物や植物の観察、どれがその発見を知り触発しやすいかという観点から見えていくということも必要ではないかと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 生き物の単元に着目して見ていきますと、光村図書の下巻の36ページ、37ページ辺りで、カタツムリとかアゲハチョウ、それからダンゴムシ、こういうものを取り上げておりまして、実際にヤゴを捕まえてきて、実際に飼うというような構成になっていたりしています。港区は都会の中とはいえども多くの自然があります。有栖川公園とか第三台場、あるいは芝公園なんかであっても、虫を捕らえてきて育てることができるといような環境にありますので、そういう点から考えると、光村図書のこの取扱い方は非常に優れているのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今、中村委員のおっしゃった自然の観察、動植物の観察ということなのですからけれども、今、港区内の学校でも、学校によってはビオトープを進めておられて、私の住まいのすぐ側の学校でも最近作られて、その池にカエルがいたという話で、これは理科にも通じることかもしれないのですが、ある意味、自然が戻りつつある、環境さえ作ってあげればというふうなことを感じております。

中でも、大日本図書の40ページから41ページで「見つけたぞ、昆虫キング」と題して10種類以上の昆虫を紹介しています。なかなか見る機会がない海外の昆虫なども取り上げて、児童の興味を喚起していると思います。海外の生き物というと、ザリガニは教材として購入することができるので港区の実態に合っているのかと思う一方、教育出版、光村図書、啓林館では、外来種のアメリカザリガニの取扱い方について注意喚起がされているので、日本の生態系を維持するためにはとても大切なことだと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 東京書籍と啓林館では、生き物を実際に飼育して、その後自然に帰すという構成になっています。むやみに捕まえるのではなくて、学習をしたら自然に帰すということについても学習することで命の大切さについても感じることもできるのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 先程身近な題材からどう新たな発見を楽しむかということをお話しましたがけれども、もう一つは、3年生の例えば理科とか社会科にどうつないでいくかという観点で見ていく必要もあります。

そうすると、例えば今出てきた昆虫の話題で言えば、教育出版の下巻の方です。生き物によっては、かなり丁寧に記載があり、そして理科への窓として、例えばチョウの構造、ここに頭、胸、腹となっていますけれども、虫の構造に目を向けていくというようなことも工夫されています。

また、先程3年の理科のゴム動力の車のゲームの話をお話しましたが、そういうこととしても、自分でおもちゃを作って遊ぶというところを各社が取り上げています。例えば学校図書の下、94ページを見ると、実際に色々な、風で動く車とか、ゴムで動く車とかを使ってゲームをします。まさに3年生の授業への布石がここにある訳です。そういうつながりを意識してこういう教科書を評価していくということも大切だと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

生き物の学習についての多くのご意見があったと思いますが、そのほかの視点からは何かございますでしょうか。

○中村委員 港区の特性という点から考えますと、大日本図書では、巻末で外国の遊びとか挨拶などを紹介しています。「せかいのなかま」では外国の遊びや代表的な食べ物などがあり、国際科でも活用できるのではないかと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 私は下巻に載っている町探検について各社見てみました。先程社会科のところでもち

らっと触れました内容で重なるところがありますが、学習内容についてはどの教科書も工夫がなされていると感じます。私は、光村図書の町探検の最後に児童が町の大好きなところを自覚するだけでなく、これから大好きな町のあり方についても考えていくという展開がこれからの児童にとって大きな視点になると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 自分の成長を見つめ直すという観点ですと、いずれの教科書も最後に自分自身を見つめる内容の章の構成が充実をしていると思います。中でも大日本図書と教育出版は、自己肯定感をより高める掘り下げ方になっていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 私は、内容的に加えて、見やすさや使いやすさについても着目してみました。学校図書は、目次に学習活動の時期というものが示されておりまして、児童が見通しを持って学習に臨めるというのがよいかと思いました。主体的な学びにつながると思います。それから、東京書籍の方は、学習カードの分かりやすさ、学習カードの分かりやすい見本が多く掲載されています。それ以外にも写真の子どもたちへの吹き出しで気づきの観点が示されており、学習が進めやすいと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今、気づきという言葉がありましたが、やはり生活科では、児童が発見したこと、気づきをどう共有し、そしてさらにそれをみんなで議論したり、整理していけるか。あるいは、みんなの発見、自分以外の発見を見ながら、それを一緒に共有していくというプロセスも大切になってきます。そういうことを考えると、例えば教育出版は、巻末に「学びのポケット」というものがあるって、その中に色々な見方や考え方をどう整理するか、その具体例もあります。

例えば、横の軸には今とこれから、反対側にはこれまで、そして縦の軸には……というように分けて書くと。あるいは、町探検で見つけたことを少し分けて四つの象限で整理をすとか。そういうそれぞれが発見したことをうまく可視化していく、黒板で可視化していくということができるような方法が提示されています。啓林館は、考えるヒントというのが巻末にあって、そこに紹介されています。

このようないわゆる思考ツールをどう使うか、また、それを板書などにどう生かすかということも探究的な学習の中では非常に重要なことだと考えています。それが低学年のうちから自然のうちに身につけることができると、その先の社会科や理科でもより探究的な学習ができるようになってくるというふうに思います。そういう意味では、今のお話したような出版社は評価できるのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 使いやすさというお話が出ましたが、東京書籍はイラストや写真が多く、発色もよいので、どのページも見やすいので、よいかと思います。また、車椅子に乗っている写真や外国にルーツを持つ児童のイラストや写真が多く掲載されており、多様性を認め合うという考え方が感じら

れます。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 イラストで言いますと、光村図書がとてもよいと思いました。児童に人気のある作家の絵をふんだんに使用していて、どのページを開いても楽しい構成になっています。楽しいので、イラストに気を取られないようにしないといけないのかもしれませんが、写真とイラストと吹き出しのバランスがとても優れていて学習をしやすいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 使いやすさという点では、児童がどう主体的に学びを進められるかということが大切になってくると思います。そういう意味では、教育出版の先程も少し触れましたけれども「学びのポケット」の項目も各ページと対応できるような形で示されていて、学習に活用しやすくなっていると思いました。うまく「学びのポケット」とそれぞれの単元を行ったり来たりできるという工夫はよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今の山内委員の意見にありました、学び方を身につけさせるという視点で各社を見たとき、光村図書は他社にはない構成の工夫が見られます。全ての活動が見開きで、上に問い、右下に振り返りが記載されています。これは、児童にとっても教員にとっても分かりやすく学びやすいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 現場の教員の意見ですと、イラストが多いと指導がしやすいという声があります。光村図書は他社に比べてイラストが豊富ですけれども、必要以上に内容を削っていないので、児童の気づきを生み出しやすく、主体的に学習を進められると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今の点は確かに私もそうだと思います。光村は表紙も素朴な絵であることが象徴的なように、あまり内容も説明的ではなくて、ある意味で子どもの生徒の素朴な発見を大事にしていこうというような姿勢なのではないかと思います。一方で、先程私が提示したようなところは光村の場合にはあまり十分とは言えないところがあります。ですから、まず1・2年生のうちの1人ひとりの素朴な発見をどう生かしていくかということを大事にしながら、足りない部分をどう現場の先生方が補っていけるかということを工夫するというのが光村図書の教科書には必要なのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 必要な情報が非常に整理されていることとか、魅力的なイラストが豊富である。そういう点から鑑みると、他社と比べてやはり光村図書の教科書が一番適しているのかなと思います。児童にとっても分かりやすいし、かつ教員の側の裁量で工夫した授業が展開できるということで、光村図書が非常にいいのではないかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

選定資料等を基に、港区の環境に適している教科書ということでこれまで意見を頂きましたけれども、光村図書の教科書が港区の実態に合っているという意見が多かったように思いますけれども、生活科につきましては光村図書の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、生活科の教科書につきましては光村図書に決定をいたしました。

次に、音楽の教科書についてご意見を伺います。現行の学習指導要領のポイントとして、表現及び鑑賞の学習を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指すことが挙げられておりますけれども、そのことを踏まえまして、ご意見等をお願いいたします。

○山内委員 今回、二つの出版社、教育出版と教育芸術社の教科書ですが、東京都の教科書調査研究資料を見ますと、教育出版が335作品、教育芸術社が289作品となっています。ただ、曲を多く入れればよいということではなくて、どういう内容のものを入れるかということが大切になってくると思います。特に、今子どもを取り巻く環境を見ると、テレビだけでなく、様々の場面で、いわゆる商業的な音楽に毒され過ぎる程、それに触れる機会が多いということを考えると、もっとよい音楽、よい歌に触れる機会を作っていくということを特に音楽の授業では大事にしてほしいと思います。そういう点で考えると教育出版は、例えば一つの例を挙げると、5年生の合奏というところで、仮面ライダーのLet's Go Rider Kickなどがあります。こういうものは音楽の教科書に必要なのか。ある意味で制作者が少し遊び過ぎているのではないかというふうにも思って、あまり私は好ましくは思いませんでした。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 音楽的な見方、考え方を働かせるという点で比較しても、両社ともに内容は充実しているなど感じました。そこで、音楽を形作っている要素について注目して見てみますと、教育出版の方は、音楽の基と言い換えています。各題材で学ぶ旋律、それから変化などの要素を教科書見開きの右上に記して、子どもたちがその教材で何を意識して取り組むべきかというようなことが分かりやすく書かれております。教育芸術社では、音楽を形作っている要素を教材を指導する際の目安として、教科書の見開きの右下に記しています。指導する先生の視点に立った内容になっていると感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○寺原委員 どちらの教科書にも言えますけれども、冒頭には学習マップが示されていて、各学年でどういった内容を学ぶかという見通しが持てるようになっています。特に教育芸術社ですと、歌う、演奏する、聴く、つくるという四つの視点から、どのような学習に取り組むか説明をしていて、より子どもたちがイメージを持ちやすいというふうに工夫をされていると思います。その点では、私は教育芸術社がよいと感じています。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかの視点でのご意見等はございますでしょうか。

○田谷委員 私は、我が国や郷土の歌の取扱いに注目してみました。教育出版は、共通教材を扱う場面では見開きページに教材に関わる写真を大きく配置、歌詞を記すことで情景を想像しやすいように工夫していました。国歌については、どちらの教科書も見開きで取り上げており、楽譜だけではなく、国歌の意味や大切さについて解説しています。また、オリンピック・パラリンピックをはじめとした日本代表選手の写真を掲載しており、世界の中での日本について音楽の学習からも学ぶことになると感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 教育出版ですけれども、ショートタイムラーニングという英語の歌のページがありまして、外国語や外国語活動との関連を意識しているという点はよいと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 子どもたちがどのようにして学習に取り組むかという視点に着目してみました。教育出版は、子どもたちが学び方を知り、そして主体的に学習内容を捉え、思考・判断として表現等をしながら、見通しを持って学習できるように全学年の教科書に「まなびナビ」のアイコンを記して、学び方について示しています。一方、教育芸術社は、学習を促すキャラクターを設定しています。本文中においては、これらのキャラクターやイラストから見つける、考えるなどの子どもたちの気づきを促していたり、対話的な学習を充実させている学習のヒントの言葉を示しているように感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今、ご指摘があったように、児童が学びにどう取り組むかということが一つ大切になってきます。例えばデジタルコンテンツがどうかということですが、教育出版社は、その教材で例えば身につける太鼓のたたき方などの動画が参照できるようになっています。一方で教育芸術社は、曲そのものを聞けるコンテンツが多く用意されているという印象がありました。前者は、自分で学習を進めるという際には適していると思いますし、後者は、例えば音の曲想というのでしょうか、それを感じ取る、あるいは曲想を感じ取りながら音のつくりを考えていく。そういうことを考えるのには優れているのではないかと思いました。

教育芸術社は、6年生の教科書でも曲想をどう味わうかというところにかなり力を入れているという印象があって、その点は音楽の教育という意味でも評価できると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 私は、総合的に考えると教育出版は児童が自宅で自分で学習を進める上には適していると思いました。教育芸術社は、シンプルな作りで教員の裁量で工夫した授業が展開できると感じました。特に港区の場合、音楽の専科教員や講師が全校に配置されていて、3年生以上は、こうした専門性のある教員に指導を受けることができます。このことから、教員自らが授業づくりを進め

やすく、実態を踏まえた指導が受けられ、児童の理解が深まることから、教育芸術社の教科書の方がよいかと思えます。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 皆さんのご意見を考えても、私も教育芸術社の方が学校で使う教科書としては優れているのかなと思いました。

○寺原委員 私も教育芸術社がいいと感じています。

○教育長 ただいま皆さんから、教科書選定資料を基に教科書ごとに内容の取扱いなど、様々の視点からご意見を頂きましたけれども、両社とも工夫が見られる中、教員の実態や児童の置かれている音楽的環境から考えて、教育芸術社の教科書の方が港区の実態に合っているということですが、それでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、音楽の教科書につきましては教育芸術社に決定いたしました。

次に、図画工作の教科書についてです。現行の学習指導要領から、育成を目指す資質・能力に創造が位置付けられたことがポイントとして挙げられます。従前より、絵や立体的なものを創作する際、発想や表現する力が求められていましたが、一層重視されることとなります。それでは、ご意見を伺います。

○田谷委員 どちらの教科書も見開きになっていて、見やすい構成になっています。学習の内容や目当て、必要な道具、作品、児童が活動している様子の写真などが一目でわかりますので、子どもたちの発想を促すことができると思います。また、作業のときや片付けのときに気をつけなければいけないこと、そういった点についても触れられており、先生方にとってとても使いやすいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 創造性をどう養うかということに、より抽象的な題材が選ばれるようになってきますけれども、でも一方で、それをどう児童が自分で見つけてやっていくか、なかなか難しいところがあります。そんなことも考えながら見た訳ですが、日本文教出版は、感じたことを伝え合うとか、あるいは音や詞などを形や色で表現するというような形で創造性をうまく刺激しながら、創造性の切り口を刺激して、平面とか立体に表現していくところを導いている、そんな工夫があるのではないかと思います。

開隆堂は、そのための手がかりになるような手法とか技法を写真とかイラストで要所要所に上手に入れながら、その創作を導く、表現活動を導くということがなされているという印象を持ちました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 図画工作ですので、参考となる作品ですね、それらのものはやはり多いほうがいいのではないかと思ったので、作品等の数を見ても、研究資料によりますと、開隆堂が1, 198

点であるのに対し、日本文教出版は1, 431点となっているようです。子どもたちの個性的な発想を引き出すという観点からすると作品数は多い方がよいと考えますので、日本文教出版の方がよいのではないのでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 数の問題、確かに多く作品が載っているというのは子どもがヒントを多く持てるという点もあるかもしれませんが、一方で児童1人ひとりが自分で創作していく、人の真似をしないで創作していくということも重要なことですので、必ずしも多いからいいということではない。逆に、あえて見せ過ぎないということも時には大事で、そのバランスは考える必要があるのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

教科書の構成や掲載作品数に関するご意見でしたけれども、この点について、そのほかのご意見等はございますでしょうか。

○寺原委員 開隆堂の教科書を見ていまして印象的でしたのは、5・6年生の下巻の66ページにあります「未来につながる図画工作」というところです。これまでの学びが将来の仕事へもつながり得ることが実際の例とともに紹介されていて、子どもたちが自分自身の将来との関係をイメージしやすいというふうに感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 その他の教科とのつながりも意識されていると思います。開隆堂では「あわせて学ぼう」日本文教出版では「つながる学び」という表現で記載されています。日本文教出版は教科等の名称なのですが、開隆堂は具体的な取組まで記載されているところがいいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 日本文教出版の教科書には、教科書美術館ミニとして、鑑賞のための作品が掲載されております。先程の作品数の多さにつながっているのではないかなと考えます。

あと、外国の友だちの絵として、海外の同年代の子の作品が掲載されているのは、国際色豊かな港区の実態には合っているなど感じました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかの視点ではいかがでしょうか。

○寺原委員 ほかの教科でもそうなのですが、この図画工作の教科書でも二次元コードが多く掲載されていて、用具の使い方だったり作品を閲覧するということができます。どちらの出版社も立体作品は360度の視点から鑑賞できるようになっています。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。

委員の皆様からは、選定資料等を踏まえまして様々な意見を頂きましたけれども、日本文教出版の教科書を推薦する意見が多かったように思います。

図画工作の教科書につきましては日本文教出版ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、図画工作の教科書につきましては日本文教出版に決定いたしました。

次に、家庭科の教科書についてです。学習指導要領では、消費生活や環境に配慮した生活の仕方、学習した知識・技能を実生活で活用することが重視されています。それでは、ご意見等を伺います。

○寺原委員 申し上げるまでもないことですが、家庭科は日常生活に直結をした教科書ですので、教育長が今おっしゃったように、より日常生活での実践につながる教科書はどれかという視点で採択をすべきと考えています。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今のご指摘の視点で言えば、両方の出版社ともに写真とか説明がかなり丁寧に盛り込まれているという印象を受けました。例えば調理の実習のページなど、両方とも非常に丁寧に記載されているし、視覚的にも分かるようになっているというふうに思いながら見たところです。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 今、山内先生もおっしゃっていただきましたけれども、両社を比べると開隆堂の方が内容的には見やすいかなという印象を受けました。特に調理実習においては、経験の少ない教員は教科書を頼りに授業を進めていきます。分かりやすい教科書であることが大事だと思います。

○教育長 ありがとうございます。

この家庭科では、消費生活や安全に配慮した生活など、生活の仕方を改めて考え、見直し工夫をしていくことが重要です。その点についてはいかがでしょうか。

○中村委員 売買契約についても図などを利用して分かりやすく説明をしているというのは開隆堂です。今後子どもたちが社会人として自立していくためにも契約等についても理解しておかなければいけないというところは非常に大事な点だと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 私も今の中村委員の指摘は同感です。特に売買契約等々消費活動の部分は、開隆堂が58ページ、それから東京書籍は36ページから記載されていますけれども、開隆堂の方が分かりやすく、また丁寧な記述がなされているという印象を持ちました。

もう一つは、どうしても家庭科は実際に調理実習とか裁縫に関心が行き過ぎですけれども、そのバランスをこれからどう壊していくかということが実は私は大切だと思っています。そういう意味では、全体の印象としては開隆堂の方が新しい家庭科のプログラムの方に思考が行っているのではないかという印象で、それは好ましく思ったところです。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 少し売買契約の扱い方のところで気になったことなのですが、今はインターネットで買い物をする、あるいはクレジットカードで買い物をするというのは、ほぼ小学生でも当たり前になっているのではないかなという気がします。そうなってくると、インターネットによる買

い物とかでお金が足りなくなった場合の買い物ではどう対応すべきなのか、そこら辺りが両教科書とも触れてありませんでした。クレジットカードの使い方については中学校では学習することになっているようですけれども、小学校においても消費者契約を充実させて、見えないお金の使い方についてしっかり学ぶ必要があるのかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。重要な指摘だと思います。

そのほかはいかがでしょうか。

○寺原委員 家庭内の家事分担については、両社とも固定観念が生じないように保護者の写真が偏りなく使用されるというふうに適切に配慮されていると感じました。

それから人種についても、人種による差別が生まれないように、国籍の違う人の絵をバランスよく使用していると思いました。あえて申し上げればですけれども、開隆堂の方がより人権的な配慮を意識している印象がありました。

○教育長 ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 おっしゃるとおり授業で知識や技能を学ぶことにとどまらず、学習した内容を日本の伝統文化や防災、環境問題と関連付け、友だち同士で意見交換をしたり、自己の生活を振り返り生活を改善するなど、実践力を身につけたいものです。こうしたことから、より多くの関連資料が掲載されている開隆堂の教科書がよいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 私も先程申したような点からも開隆堂の方を押ししたいと思います。ただ、もちろん教科書に課題はあって、例えば食生活はいずれの教科書も多くのページを割いていますけれども、なぜか日本の家庭科教育はお味噌汁が教材の中では多くを占めています。本当はもっと健康教育と結びつける、そういうものも展開できる教科書になったらいいなと読みながら思いました。日本人の塩分摂取量は大体平均10グラムぐらい。WHOの推奨は5グラムです。お味噌汁一杯飲むごとに1グラムか2グラムの塩分を取っている訳です。だから、やはりそういうところももっと、お味噌汁をこんなに使うのであれば、いかにそれが健康面から課題もあるかということも、本当は健康教育の面でも教材として充実してくるといいのになといつも思いながら読んでいます。

○教育長 ありがとうございます。

食育についてはしっかりと教育委員会としても対応していかなければいけないと思っています。

ほかにはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

委員の皆様からは、開隆堂の教科書の方が図などを活用してより丁寧な説明がされているほか、参考となる資料が分かりやすく掲載されており、子どもたちの学びを広げ日常生活で実践できる教科書という意見が多かったと思います。家庭科につきましては開隆堂の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、家庭科の教科書につきましては開隆堂に決定をいたします。

この後、5分間の休憩を入れる中で教科書の入替えを行いますので、よろしくお願いいたします。
5分後に再開をいたします。

(休憩)

○教育長 それでは、時間になりましたので、議事を再開させていただきます。

次の教科書は保健です。学習指導要領では、心の健康やけがの防止、病気の予防の学習を列記しています。これらの学習で学んだことを実生活で実践していくという視点からご意見を伺いたいと思います。

○中村委員 G a k k e nの教科書ですけれども、3年の学習のまとめですね。まとめるスタイルの欄を設けておられて、学んだ知識を活用して児童の日常生活につなげていくような構成になっています。また、イラストとか写真も非常に大きく取り扱われておられて、吹き出しを用いて思考を促し発問が提示されるなど、授業で非常に活用しやすい内容になっていると感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 学習の流れといった点では、東京書籍は課題解決を意識した学習の流れを示して教科書の紙面を構成しているのが印象的です。単元のはじめに学習の進め方を明確に示しており、学習の流れの中に伝える場面を想定しているため、表現力を育成することにつながると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 大修館書店は、児童が記述するスペースが多いので、学習して考えたことだったり学んだことを書き込んで主体的に学べる構成になっていると感じました。

それから、文教社の方は、体の発育・発達の単元で、写真ではなくてイラストで身長の変化、体の変化を示している。そういう工夫もよいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 その他の出版社、例えば光文書院は、見つけよう、考えよう、話し合いを生かそうという構成になっていて、児童の学習の流れ、学習の意欲をうまく刺激できる工夫があると思いました。

あと、健康教育ということを考えてときにも、安全教育ということを考えてときにも、やはり必要な知識をきちんとどこまで提示して教えられるかということも重要です。どの教科書も発展的な学習内容という形で必要な知識を補っていますけれども、そういう中では比較的G a k k e nは丁寧にかかれていたと思います。例えばA E Dに関する記述を見ても、胸骨圧迫のときの重要なポイントが一番分かりやすく、そして過不足なく分かりやすく書かれていたのはG a k k e nの教科書だと思います。

○教育長 ありがとうございます。

今、山内委員からもありましたけれども、発展的な内容の充実という視点でのご意見等はございますでしょうか。

○寺原委員 東京書籍と大日本図書とG a k k e nの3社では、発展的な学習として性の多様性を取り扱っています。3社とも好きになる性別だったり自認する性別について、子どもたちそれぞれ

の感じ方をより尊重する書きぶりになっていて、子どもたちが自己肯定感を失わないで済むように配慮をされていると感じます。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 東京書籍では、新型コロナウイルス感染症などの感染拡大を予防するマスクの付け方、外し方が詳しく示されていて、生活につながるような発展的な内容が充実しています。また、共生社会の実現に向けて、ユニバーサルデザインを意識していくことが大切になっています。東京書籍では、幅の広い改札口、スロープ、点字ブロックなどユニバーサルデザインに関する内容を上げていて、子どもたちの視野が広がることが考えられます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、田谷委員がおっしゃったとおりで、共生社会の実現というのは大切だなと思いました。Gakkenでも86ページのところに、スロープやノンステップバス、点字のほか、選べる制服など、誰もが安心して暮らすことができるような身の回りの様々な配慮の仕方を示しており、いいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 今、言われたような共生社会のための安全のための仕掛けというのは、例えばGakkenは今のご指摘があったページだけではなく、例えば32ページの、いわゆる交通事故の防止のための色々な工夫ですね。そういうところにも現れています。安全教育ということを考えたときに、ちょうど今その隣のページ33ページが、自動車の事故に関する問題として、自動車の特性、内輪差があると死角がどうあるかというようなことも非常に具体的に分かりやすい図と写真で提示をしていますけれども、情報をきちんと理解を深めるためにこういう資料を提示するというのも重要なことかと思いました。

それから、各社教科書を見ていて、いわゆる心の健康というものがどの出版社も丁寧に記述されるようになってきているという印象を持ちました。もちろんまだまだ工夫できることはありますけれども、その中で言えば、例えばある出版社は、同じストレスでも同じ状況でも人によって感じ方は違うというようなことが書かれていました。あるいは、Gakkenだと、思春期というのは誰もが悩むものだというようなこと。つまりそれで色々な不安を感じたりあるいは悩むことがあったりとか、それは誰もがすることだというようなことが書かれています。そして、その対処の方法までつながるようになってきている。そういう記述も好ましく書かれていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 選定委員会の資料を見ますと、安全教育とか、がん教育に対する内容も充実しているのはやはりGakkenなのかなという気がします。Gakkenは、補充資料も豊富に展開しているほか、絵や写真もバランスよく配置されているところに好印象を持ちました。実生活へのつながりを持たせるといふ意味からいくと、Gakkenが一番よろしいのではないかと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 確かにGakkenは、これまでの皆さんからのご意見にあるように、イラストや写真も大きく発展的な内容もかなり充実しています。私も現場の先生方の使いやすさを考えてGakkenがいいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委員の皆様からは、Gakkenの教科書を評価する意見が多かったように思います。保健につきましてはGakkenでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、保健の教科書につきましてはGakkenに決定いたしました。

次に、学習指導要領で外国語として示されている英語の教科書について採択を行います。港区では、全ての区立小学校が教育課程特例校としての承認を受け、平成19年度より国際科として英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培ってきました。なお、英語については2回目の教科書の採択になります。現在、区立小学校では東京書籍の教科書を採択しております。採択に当たり学校現場の声で事務局が把握していることがあればお話をお願いいたします。

○教育指導担当課長 今回採択される教科書は、学習指導要領に示されたとおり、小学校5年生と6年生で活用していく予定です。港区では、小学校1年生から国際科の授業を実施しているため、現在、教科書の内容を既に学習している場合もあります。70時間の授業時間数の中で、採択される教科書以外にも港区独自の国際科カリキュラムのテキスト、それから東京都の英語教材等を使用いたしまして、各学校の国際科の授業を現在行っております。このような実態から、現場からは、英語の分量が多い方が港区の実態に合っているのではないかというような意見を多くもらっているところでございます。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明に対して、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、皆さんからご意見を伺いたいと思います。

○山内委員 外国語では、英語による聞くこと、話すこと、それから読むこと、書くこと、あるいはインプットとして聞くこと、読むこと、アウトプットとして話すこと、書くことという活動をどう豊かに展開し、そしてコミュニケーションの能力を高めるか、あるいはそれに対する前向きな姿勢を育むかということが大切になってくるかと思います。港区は1年生の段階から国際科の授業を展開していますので、そこのつながりで教科書を選択するということが何よりも大切になってくるのではないかと。その意味では、できるだけ内容が豊富で難易度の高い教科書を選択するということがよいかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 東京都の教科書の選定資料で示された四つの事項について取り扱った活動の数を見て

みますと、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの四つの機能がバランスよく取り上げられているのが、東京書籍、開隆堂、三省堂、そして啓林館。これらの4社は取り上げている語彙の数も豊富です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○寺原委員 東京書籍ですけれども、例えば5年生の14、15ページのOver the Horizonのコーナーのように、世界の情報だけではなくて日本の文化が効果的に扱われているという点で、子どもたちが興味・関心を持ちやすい教材が多いというふうに考えています。

内容面では、単語や英文を書く欄だとか活動というものが充実をしていて、全体的に学習内容のレベルが高い教科書だと感じました。港区の実態あるいは学校現場からの意見にも合っていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○中村委員 開隆堂の教科書は、右のページの上の部分に單元ごとのゴールと目当てを掲載しています。どんな学習をするのか、どんなことができるようになるのかをつかみ、学習の見通しを持つことができます。また、子どもたちと同世代のキャラクターが成長する様子をストーリー仕立てで展開しているため、子どもたちが学習に取り組みやすい構成になっています。英文が多く載っているため、1年生の頃から国際科の授業を行っている港区の子どもたちには適したものになっていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 教育出版については、全体的に問題文がシンプルで、会話文のやり取りが理解しやすい構成になっていると思います。また、流行のキャラクターを小単元の冒頭に配置するなど、児童の興味・関心を高めようとしています。また、光村図書も小単元の冒頭は映像を見て考える活動を取り入れて子どもたちの興味・関心を高める工夫がされています。活動も多めになっている教科書です。

○教育長 ありがとうございます。

○山内委員 ほかの教科書、例えば三省堂は発展的な学習の場面として、学んだことを活用して、さらに自己紹介もしていくと。目的や場面、状況に応じて話す内容を考えながら対話的な活動ができるようにというふうに工夫はされているかと思います。

それから、グローバル社会の中で活躍をする素養をどう養うかという点でも、このような積極性を引き出すような視点は大事だと思いますが、その点でもう一つ言えば、やはり先程寺原さんが言われたように、東京書籍が日本の文化も結構扱っているというところは重要だと思いました。例えば5年生は、それ以外にも80ページに、世界に影響を与えている日本の文化について考えよう、日本……教えようというようなことがあります。こういう視点というのも重要で、内容としては評価できると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

委員の皆様からは港区の実態を踏まえたご意見を頂きましたけれども、そのほかの視点からのご意見等はございますでしょうか。

○山内委員 その他、教科書の構成として、特徴を見ていくと、例えば開隆堂は巻末にCAN-DOリストが付いていて、学んだことを書き留めたり、振り返られる。全体を見通せるような構造ができています。このような工夫は評価できると思いました。

それから、例えばいくつもの単元がある中でそのまとまりを見せるという意味では、三省堂は大きな単元ユニットの下に小さな単元レッスンも複数組み合わせるという形で、全体の構成を見やすくしている工夫もあります。こういう様々な工夫がありますけれども、こういう観点からも教科書を見ていっていいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 啓林館の教科書は各小単元の中に外国の文化や日本との違いについて紹介するページが設けられています。とにかく授業を進めながら他国の文化等に触れられる内容になっておりまして、特に6年生のWelcome to Japanの小単元では、日本の文化を海外に発信するという練習もできるようになっております。真の国際人育成を目指す港区の教科書としては適しているのかなと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 私は東京書籍について、自分のこと、身近な地域のこと、日本のことと扱う題材が同心円的に広がる構成になっている点がいいと思います。また、どの小単元も、慣れ親しみ定着を図る、コミュニケーションを楽しむ、世界の文化を知る、学びを確かめるという構成になっており、教員と子どもたちにとって学び方が分かりやすくなっていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 今の点に加えまして、東京書籍は掲載されている語彙の数が多くて、My Picture Dictionaryという別冊の辞書が付いています。これは、二次元コードを読み込むことで、児童がよく使う単語300語が収録されたDigital Dictionaryにもアクセスが可能です。十分な語彙数が掲載されているということは、港区の子どもたちの実態に合っていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 東京書籍でもう1点指摘したいことがありまして、それは各小単元に「書く」という活動、これが取り上げられていて、その難易度も高い。港区の子どもたちには合っているなと思いました。難易度の高い書く活動を繰り返すことが中学校での英語を学ぶ際にも生かされるのではないかと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

これまでの皆様のご意見を踏まえ、取り扱う活動数が多く、また内容も豊富であることや学習内容の難易度が高いことから東京書籍が港区の教員や子どもたちの実態に合っているという意見がございました。東京書籍を推薦する方が多いように思います。英語の教科書につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、外国語としての英語の教科書につきましては東京書籍に決定をいたしました。

それでは最後に、特別の教科道徳の教科書についてご意見を伺います。特別の教科道徳は令和2年度に廣済堂あかつきの教科書を採択しましたが、今回あかつきさんは道徳の教科書を出版しておりませんので、採択の差し替えとなります。学校現場の声として事務局が把握していることはありますでしょうか。

○教育指導担当課長 学校研究の意見では、二次元コードを端末で読みとることによる教科書教材の朗読、それから子どもたちが意見を書き込むことができるワークシートの活用を評価する意見が多く見られました。今回の採択では、どの教科書会社でも二次元コードの内容を充実させているなと思います。また、子どもが常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていくことを重視する考えが広がっており、こうした道徳の授業を行いやすい教科書を使用したいという声が挙がっております。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明に対してご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、皆さんから教科書に対するご意見を伺いたいと思います。

○中村委員 掲載されている教材の特徴を述べたいと思います。特に東京書籍ですけれども、いじめ防止について考えるために、5年生の教科書の42ページから43ページに子どもの権利条約、6年生の40ページから41ページにいじめ防止対策推進法を掲載しております。いずれも当事者や関係者に向けた情報が掲載されておまして、全ての子どもたちがいじめ防止について考えることができるようになっております。そういう意味では、東京書籍のいじめに関わる記載は充実しているなと考えました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○山内委員 日本文教出版は、要所要所に「心のベンチ」というページが設けられています。そこで例えば、国内で言えば、情報モラルの問題、あるいはいじめと法律の問題、あるいは世界人権宣言等を紹介しながら、ある意味で今日的な視点から道徳的な考えというようなページを設けているという工夫があると思われました。

それから、ほかの出版社で印象深かったのは光文書院です。光文書院は、例えばLGBTQの問題など内容も工夫はありますけれども、形式としても工夫があって、各学年の巻頭に「いろいろな

やり方で考えてみよう」として、Xチャート、Yチャート、ウェビング、フィッシュボーン、クラゲチャートと言われるような、そういう思考ツールを紹介しています。つまり一見どうしても議論が観念的になりやすい科目ですので、その中で考えを整理できるようなものが各学年できちんと取り入れられているという点は特徴的だと思いました。ただ、光文書院はそこをしながら、各学年の巻末に「学びの足あと」というのがありますけれども、そこではなぜか「心の矢印」というのを書く欄が、斜め上と横と斜め下に行く矢印だけ。つまり、いわゆる情緒的だけでない道德についてもっと議論をできるようにということとこういう思考ツールなんかを出しているのに、最後は心の矢印を評価するというある意味で情緒的なところに行ってしまう。しかも矢印の方向が上と下しかない訳ですから、一方向の軸の中でそれを表現させるというところで、せっかく色々な工夫があるのにそこで矛盾があるというのはもったいないなということを感じました。

○教育長 ありがとうございます。

○田谷委員 私は、色々単元がある中で差別について見てみました。教育出版は6年生の92ページに、差別が今も存在している実態について話し合う教材を掲載しています。建前だけではなく、本音を語り合ったり、現状について見つめたりできる教材があり、考え議論する道德の実現が可能になっています。

光村図書については、6年生の158ページに、「私には夢がある」という材料を掲載しています。非暴力的で人種差別反対を訴え続けた人びとの姿を通して、差別や偏見を許さない。そういった大切さについて考えることができます。実在した人物の考え方から学ぶことができると思います。

○教育長 ありがとうございます。

○寺原委員 今の差別の観点からしますと、Gakkenは6年生の58ページの「未来への裁判」という教材で、元米国連邦最高裁判事のルース・ベイダー・ギンズバーグさんを取り上げています。これは、性差別の問題を子どもたちに考えてもらう上で適切な教材だと考えています。

それから、情報モラルを始めとする現代的な諸課題の教材数が他社に比べても多いという印象ですし、あとは、国際理解について考える教材も充実しているので、港区の実態にもマッチしていると思います。学校から報告された研究資料によっても高い評価を得ていました。

○教育長 ありがとうございます。

委員の皆様からは掲載されている教材に関するご意見を中心に頂きましたけれども、どの教科書会社も工夫をしていることがうかがえます。

ほかの観点からのご意見等はございますでしょうか。

○田谷委員 日本文教出版は、別冊の道德ノートが付いていることが特徴的です。自由記述の枠と罫線の枠があり、各学校が工夫をして様々な授業ができそうです。一方、自由度が高過ぎて若手の先生方には使用しづらい場合もあると思います。

また、東京書籍は、「つながる・広がる」コーナーで、主題や資料について関連する書籍や動画の紹介があります。授業での学びを個々の興味、関心に基づいて発展させることができます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○寺原委員 光文書院は、各教材の終わりに掲載されている問いにアイコンが付いていて、学習課程が子どもたちにとって分かりやすいようになっています。見通しを持って学習を進めるということにつながると思います。

それから、教育出版でも似たような工夫がされていて、教材内容を理解するための「考えよう」という発問と自分の考えを深めるための「深めよう」という発問が明確に分けられています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 光村図書の教科書を見ますと5・6年生の場合、「周りの人とよい関係を築くって？」それから「広い視野で人や社会と関わるって？」それから「自分の生き方を見つめるって？」という大きな問いごとに各教材が配列されております。複数の資料を通して大きなテーマについて考えることができる構成になっています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 各教科書の構成を見比べたときに、多くの出版社はそれぞれの単元で、初めのところに読み物の題名と一緒に、その目標というか、視点を提示しています。一方でそれをしていないのがGakkenです。つまりGakkenは、その資料を読む段階で、子どもたちが何をするか、何を読み取ってほしいかということ誘導していないということは特徴的なのかなというふうに思いました。一方で、Gakkenはそれを補うためか、目次の次に、実はそれぞれの単元の目指しているものが分かるような、隠れ目次のようなものがあって、そこで全体の構成の趣旨が分かるようにも工夫されているということがあります。

また、できるだけ考える機会を作ろうという点で言えば、1年生の教材で言えば『きんのおのぎんのおの』の物語があえて途中までにされていて、より考えられるような工夫をしているところがあります。こういう姿勢はGakkenの教科書の特徴なのではないかと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 今の山内委員のご発言に加えて、Gakkenは解のない問いが多く掲載されていることも特徴です。例えば6年生の123ページでは、あなたの考えに一番近いのは誰だろうという問いがあります。三つの立場から子どもたちが意見を交わす授業ができます。子どもたちが議論しやすいよう工夫されているということは、考え議論する道徳の授業の実現には欠かせないことだと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 港区に身近という関係で話すと、教材の内容として、港区にある郡上おどりを題材にした教材が掲載されています。青山という地名は、江戸時代に郡上藩の藩主を務めた青山家の下屋

敷があったことに由来すると言われていています。この点からもGakkenの教科書は港区に合っているのではないのでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

これまでのご意見を踏まえますと、学校から報告をされた研究資料で高い評価を得ている、また考え議論する道徳の授業の実現にふさわしい教材が掲載されていること、構成がよいことなどから、Gakkenの教科書を推薦する方が多いように思います。道徳の教科書につきましてはGakkenでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 それでは、道徳の教科書につきましてはGakkenに決定いたしました。

以上をもちまして、令和6年度区立小学校で使用する教科書の全てを決定いたしました。再度確認させていただきます。国語、光村図書。書写、光村図書。社会、東京書籍。地図、帝国書院。算数、東京書籍。理科、大日本図書。生活科、光村図書。音楽、教育芸術社。図画工作、日本文教出版。家庭科、開隆堂。保健、Gakken。外国語、東京書籍。道徳、Gakken。以上でございます。

それでは、採決に入ります。議案54号について前述のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、議案第54号については、前述のとおり決定することに決定いたしました。

2 令和6年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長 次に、議案第55号「令和6年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」説明をお願いいたします。それぞれ机上に今、教科書の方は配られています。

○教育指導担当課長 それでは、資料ナンバー55を用いまして、「令和6年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」説明させていただきます。

特別支援学級では、小学校、中学校ともに区で採択されました教科書並びに文部科学省が著作しております星本。さらに市場で一般に市販されている一般図書と呼んでいるものの中から、子どもの実態に応じて教科用図書を選びます。

恐れ入りますが資料55番を見ていただけますでしょうか。今回、使用予定というところを出させていただいたリストがこちらになります。参考で別紙という形で今年度採択している一般用図書についても載せさせていただいてございます。この採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定によりまして、教育委員会が毎年採択をするものでございます。令和6年度使用する図書につきましては、特別支援学級設置校長より、教科用図書として使用するに適してい

る、これらを使いたい、使わせたいと思っている子どもたちがいるということで調査結果がありました。これらの採択についてご審議をお願いいたします。

○教育長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

○田谷委員 特別学級の個々の生徒の現状は現場の先生方が一番よく分かっておられると思います。現場の先生方と校長先生が推薦した図書ですので、これで承認してよろしいのではないのでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、採決に入ります。議案第55号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、原案どおり可決することに決定いたしました。

3 令和6年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長 次に、議案第56号「令和6年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」事務局から説明をお願いいたします。

○教育指導担当課長 次に、議案第56号「令和6年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」をお願いいたします。採択につきましては、先程の小学校の特別支援学級同様、中学校特別支援学級設置校からも同じような提案をされてございます。一般図書につきましても同様に使用したい旨、意見が挙がってございますので、これらの採択につきましてご審議をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○教育長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

○田谷委員 小学校の場合と同様に、現場の事情、また現場の生徒をよく分かっておられる先生並びに校長先生からのご推薦とのことですので、このまま承認するのがよいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、採決に入ります。議案第56号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、議案第56号については原案どおり可決することに決定いたしました。

本日、予定をしている案件は全て終了しましたが、委員または説明員の皆さんからその他何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

「閉会」

○教育長 なければ、これをもちまして閉会といたします。

次回は臨時会を8月21日、月曜日、午前を予定しております。オンラインでの開催となります。よろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

会議録署名人

港区教育委員会教育長 浦田 幹男

港区教育委員会委員 寺原 真希子